

第二日目は.....

さて、第二日目は、昨日読んでやった漢字カードを見せて、「これは何というカード？ 読んで頂戴」と言います。すると、百人に一人くらい読めない子もありますが、たいていは、一日三回の反復練習でその漢字を覚えてしまい、「ねこ」と読みます。

読めたら、「よく読めたわね。では、今日は、坊やの大好きな“莓”という字を教えてあげましょう。これは“いちご”という字。いちご。坊やも読んでごらんなさい。はい、いちご」と、第一日のやり方と全く同じ要領でやります。

第一日と違うのは、第一日の漢字を先に見せて「これ、何という漢字？」と言って訊ねることが加わるだけです。これも、「第一回目に読めたから、第二回以下省略」はいけません。読めたから、読んでもらうのです。読めるようになった字を読ませることが大切なのです。

では、百人に一人の読めない子だったら、どうするか、です。「きのう、六回も教えてやったわよ」などと言って、子供を責めてはいけません。その場合は、初めて教えるような顔をして、「これは坊やの大好きな

“猫”という字よ。では一緒に読んでみましょうね。はい、“ねこ」と、やさしく教えてやることです。

決して、よその子供と比較して、子供を責めたり、あせって子供に押し込むように圧力を加えてはいけません。むしろ、大器晩成型の頼もしい子供に、一週間くらい少しも覚えそうにもない子供がいます。

こういう子供は、軌道に乗ればしめたものですが、それまでは骨が折れます。その代わり、そういう子供の方が成功の喜びも大きいのですから、あせらず、じっくりと落ち着いて教えることが必要です。

第一回目の質問で読めなかった子には、第二回以降「これなあに？」という質問はやめて、「これは“ねこ”という字よ」と第一日と同じことを繰り返してやって下さい。